

令和 2 年 6 月 3 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01957

研究課題名(和文) 軟X線・X線CTを用いた栽培植物・家屋害虫のタフォノミーと縄文人の心象の解明

研究課題名(英文) Study for taphonomy of cultivated plants and house pest insects and elucidation of Jomon people's mind using soft X-ray and X-ray CT

研究代表者

小畑 弘己(OBATA, HIROKI)

熊本大学・大学院人文社会科学研究部(文)・教授

研究者番号：80274679

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、土器中のタネやムシの痕跡をX線機器で探し出し、縄文人の栽培植物に対する想いやイネなどの大陸系穀物がいつ縄文人に受容されたのかを検証する研究である。その結果、北海道の遺跡において多量のコクゾウムシを混入した土器を発見し、東日本ではマメ類とともにクリが栽培され、害虫とともに北海道へ伝播したこと、そして、西日本と東日本の主利用堅果類の違いや防虫剤の存在を明らかにできた。定住化とともに、ダイズ・アズキやクリなどが栽培・貯蔵され、そこに食料害虫が発生し、食料の運搬とともに日本中へ拡散した。弥生時代以降と考えられていた植物栽培とその豊穰を祈る感性がすでに縄文時代に存在していたことを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

縄文時代はこれまで狩猟・採集の時代と考えられてきた。しかし、2007年に縄文土器の圧痕としてダイズが発見されて以来、縄文人が有用植物を栽培していたことが明らかになった。この土器圧痕はまさに縄文人が作り出した人為化石である。本研究はX線機器を用いて土器中の圧痕をすべて検出するという研究手法の精確性や高効率性から、多量のタネやムシを入れた土器の発見につながった。これまで、主に年代指標として使われていた土器を、新たな生活史・思想史復元の資料源とみなし、縄文人たちの生活や栽培植物に対する想いを掘り出すこの研究は、私たちがステレオタイプ的に考えている歴史観を覆す可能性を秘めている。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to find traces of seeds and insects in the paste of earthenware using X-ray equipment and to verify what Jomon people's feelings about cultivated plants and when continental grains such as rice were accepted by Jomon people. As a result, we found an earthenware mixed with a large number of weevils at a Jomon site of Hokkaido and estimated that chestnuts were cultivated along with legumes in eastern Japan, and were spread to Hokkaido along with the pests by Jomon people. Additionally, a difference of main nuts consumed by Jomon people between eastern and western Japan was revealed. With the settlement, soybeans, chestnuts, etc. were begun to be cultivated and stored, and food pests occurred there, and they spread throughout Japan along with the transportation of foods. It was clarified that the plant culture, which was thought to have existed after the Yayoi period, and the sensibility to pray for its fertility already existed in the Jomon period.

研究分野：考古学

キーワード：縄文時代 土器圧痕 栽培植物 家屋害虫 大陸系穀物 X線機器 多量種実混入土器 定住生活

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

縄文土器や弥生土器を中心に、土器表面に表出した混入種実や混入昆虫(表出圧痕と呼称)を検出する方法として、圧痕部にシリコンゴムを流し込み、レプリカ(ポジ型)を作成し、走査型電子顕微鏡で観察・同定を行う方法は、「レプリカ法」と呼ばれ、縄文時代の栽培植物(ダイズ・アズキ・エゴマなど)の全国的な発見を導くなど、ここ15年来、大きな成果を挙げた。しかし、研究の進展とともに、土器圧痕の成因に関する問題が議論されるようになり、その議論の核心は、土器胎土中に隠れ土器表面からは検出できない「潜在圧痕」の存在そのものであった。申請者はこれを解決する方法として、従来研究の手法である「レプリカ法」に軟X線装置とX線CT装置を組み合わせた手法を開発し、「熊大方式」(文献)として提唱した。この手法によって、潜在圧痕の検出と同定が可能になり、これまで表出圧痕だけで議論されていた不安定な資料をより精確化できる見通しを立てた。

2. 研究の目的

本研究は、この「熊大方式」を用い、その手法をより発展させることで、表出圧痕のみで議論されてきた考古学的命題に関して、精確な根拠資料に基づいた実証的な検証を意図した研究である。本研究によって、これまでの研究手法で課題として残された以下の2点を明らかにできる。

大陸系穀物(アワ・キビ・イネ・ムギ類)の伝播時期の確定

(農耕伝播への縄文人の関与の有無)

土器胎土中への有用植物種実および家屋害虫混入の意味の解明

(縄文人の心象・生活様式の解明)

については、既存研究により、日本列島への大陸系穀物の流入時期は、突帯文出現期を最古とするという見解がだされていた(文献)。実際、これを遡る時期の穀物資料は現在のところ得られていない。ただし、この結論には2つの問題点が存在する。一つは、土器型式の地域的傾斜である。土器編年は型式比較をもとに経緯軸を設定して、土器に関連する遺物の時空的変遷を把握する。しかし、同型式であっても地域的に年代が異なる(古型式の伝統的使用)の現象が確認されている。もう一つは、穀物流入時期の穀物圧痕資料はきわめて少なく、表出圧痕として顕在化しにくい状況にあり、潜在圧痕によるさらなる検証が必要である点である。

に関しては、土器粘土中の総圧痕数の量的比較、そしてそれら以外の夾雑物の有無と種類が、特定生物種の意図的混入であるか、偶然の混入であるのかの判断基準となる。これを明らかにするためには、偶然に土器表面に現れた特定生物種の表出圧痕の評価だけでは不十分である。このために、土器胎土内に入る全生物体の種類と数を特定する必要がある。

3. 研究の方法

上記の問題を解決するために、軟X線装置による初動調査を基本として、土器圧痕の悉皆調査を行うとともに、その手法の開発(軟X線による同定精度の高度化)を行う。さらには、これら圧痕法による成果と、土器製作にかかわる遺構や遺物の考古学的検討、土器圧痕成因に関する民族学的調査を実施した。

基軸となる熊大方式による土器圧痕調査は、上記の主課題について以下のような方法をとる。

1. 軟X線装置にて圧痕候補を撮影し、種実・昆虫の可能性によってランク分けをする。
2. 低解像度X線CT装置によるランク付けの再検証
3. Aランクより選別した候補を高解像度X線CTによって撮影し、3D画像を作成し、観察・同定を行う。

4. 研究成果

総合的にみて、課題1に関しては十分な成果は得られなかった。しかし、課題2に関しては、今後の課題も含まれるが、当初の期待通りの成果を得ることができた。課題1に関しては時間的・資料的制約から十分な調査が行えなかったことに起因しており、課題解決のための方法としては本手法の正当性・妥当性は揺るぎないことは確信できた。

(1) 大陸系穀物の流入時期に関する研究

福岡県(橋本一丁田遺跡・那珂遺跡)および熊本県(吉原遺跡・江津湖遺跡・上南部A遺跡・山王遺跡・扇田遺跡)・佐賀県(大野遺跡・西畑瀬遺跡・東畑瀬遺跡)内の遺跡資料を従来のレプリカ法によって調査し、突帯文期遺跡において安定的にイネ・アワ・キビを中心とした大陸系穀物を検出した(文献)。これは従来の説と矛盾しない。ただし、これらの遺跡においては、熊大方式を採用できなかったため、今後の追調査による検証が必要とされる。これに対して佐賀県嘉瀬川ダム関連遺跡においては、縄文時代後期中葉から弥生時代早期にかけての4つの遺跡において、熊大方式によって潜在圧痕の検出を行った。この結果、黒川式古中段階の粗製深鉢形土器にアワが含まれることが明らかになったが、その他の突帯文土器の大陸系穀物保有率の高さと遺物包含層の形成過程の検討の結果、この黒川式土器は突帯文並行期まで下がる可能性がある」と結論づけた(文献)。

もっとも有力候補である江辻遺跡SX01試料を軟X線によってすべて検討した。現在もまだ継続的な分析中であり、最終的な結論は得ていないが、突帯文期(4層)を遡るイネは検出して

いない。

以上より、本課題に関しては従来の説を追従した段階で終わり、十分な成果を得ることができなかった。江辻遺跡例では、破片資料を悉皆的に調査したため、思いのほか調査に時間が掛かった。これは軟X線装置の試料台の狭さなども改善する必要があり、今後の課題としたい。

(2) X線機器による検出法・同定法に関する研究

上記の佐賀県嘉瀬川ダム関連遺跡中の縄文時代後期後半～突帯文期の4つの土器群において、表出圧痕と潜在圧痕の検出率を比較した。その結果、東畑瀬1区の突帯文期に穀物資料を含む種実圧痕数の検出率が高くなる傾向があった。これを反映してか、10kg当りの潜在圧痕率は8個ときわめて高く(図1)、実際の総圧痕数では52点中34点(65.4%)が潜在圧痕であり、大陸系穀物に限ると13点中12点が潜在圧痕であった(文献)。

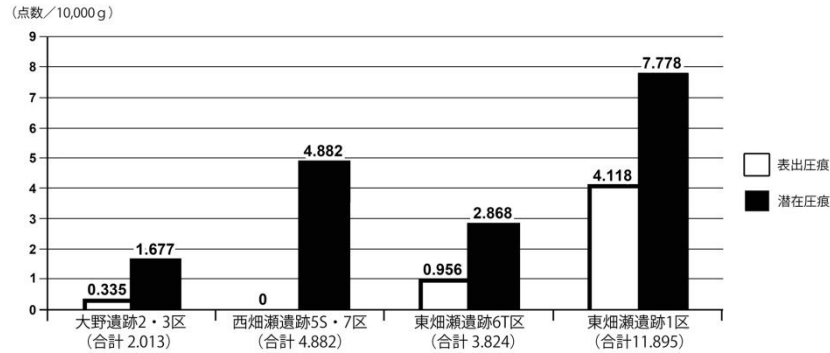


図1 佐賀県嘉瀬川ダム関連縄文～弥生時代遺跡土器の土器圧痕検出率比較図(文献)

また、熊本市江津湖遺跡第9次調査で出土した突帯文甕形土器を精査したところ、イネ圧痕は表出圧痕が7点に対し、潜在圧痕は8点であり、X線による調査の必要性を再認識した。またこの調査でイネ圧痕の検証に使用した断面形による同定法はコスト軽減にもなり、今後の調査法の指標となり得るものである(文献)。

(3) 土器混入昆虫の研究

北海道館崎遺跡において検出したコクゾウムシを多量に混入した土器をX線機器を用いて分析し、貯蔵堅果類害虫の意図的混入を証明した。ここでもX線撮影によるコストを削減のため、低解像度の断層画像からコクゾウムシを認識・計数した。その際、接合していない同一個体の破片資料から得られた高解像度のコクゾウムシ潜在圧痕断層画像を参考にするという手法を用いた。混入の意図に関しては、全国的に集成したコクゾウムシ圧痕資料との形態的比較により、東日本と西日本のコクゾウムシの加害した貯蔵堅果類の違い(クリとコナラ属)を証明した(図2)。また、コクゾウムシの存在から、従来言われていた東北地方から北海道へのクリ栽培の伝播を追証し、縄文時代の東日本におけるクリ栽培の存在を害虫の側面から立証した(文献)。これに付随して、比較資料として九州地方のコクゾウムシ圧痕が複数混入した土器を精査し、これらが東日本に比べきわめて少ないことを明らかにした(2019年度に発表)。そして、このような種実や昆虫の混入の行為が、東高西低の地域性(生業差)をもつと推定した。

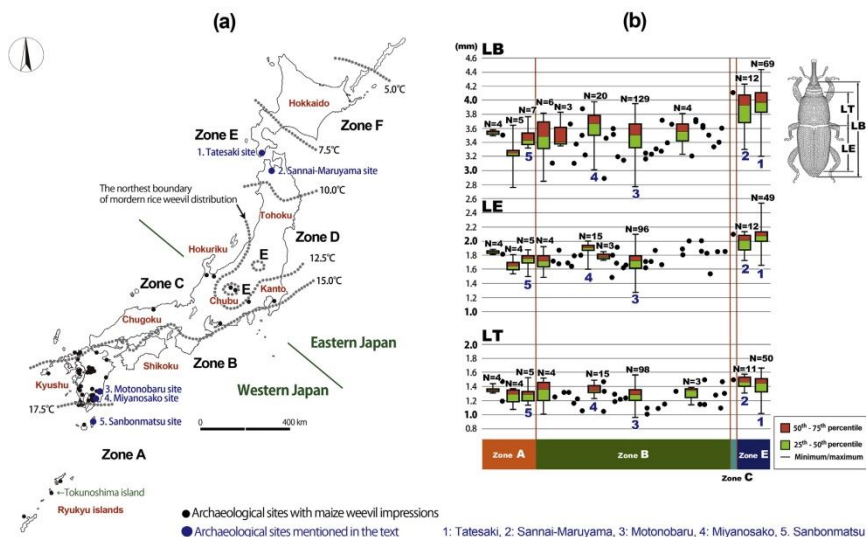


図2 日本検出のコクゾウムシ圧痕の分布と地域ごとの大きさの違い(文献)

(4) 圧痕の成因に関する考古学的・民族学的研究

偶然の混入による土器圧痕の成因については、縄文時代中期における竪穴住居址出土の生粘土や砂、土製製作台の存在から、竪穴住居址内で土器が製作されたために、発生した可能性を考古学的に立証した。また、このような生活ゴミの入りやすい環境での土器作りとそうでない工業生産的な土器作りの違いとその場における種実や害虫の組成を調査するために、タイやラオスの土器作り村での民族学的調査を実施した。生活の場で土器を作る場合、食料残渣としての種実またはその副産物(籾殻などのゴミ)、貯穀害虫やネズミの糞などが多数存在し、土器粘土中に混入しやすい可能性を観察することができた(2019 年度発表 : 文献)。

(5) その他の成果(縄文時代の防虫剤の発見と検証)

西日本の縄文土器の圧痕調査において多量に検出されるカラスザンショウ果実の意味について、その検出状況や化学成分の分析などを通じて、貯蔵堅果類を加害するコクゾウムシなどの害虫を駆除する、防虫剤である可能性を指摘した(文献)。また、大分県中津市法垣遺跡において多量の炭化カラスザンショウとともにこれらを多量に混入した縄文時代後期の深鉢形土器も発見した。

以上のような諸研究によって、多量種実・昆虫混入土器が意図的混入という文化的行為の所産であるということ、それら栽培植物や家屋害虫に対する彼らの意識についてもある程度推測ができた。であれば、土器圧痕は文化的行為の所産であり、その組成には製作者の意図が反映しやすいこと、さらには表面に表れない潜在圧痕が存在すること、この2点から、表出圧痕のみに依存した調査結果から、栽培植物の量に関する遺構間差、遺跡間差、地域間差、時期間差などの議論を行うことは危険を伴うことは明らかである。意図的混入の意味については今後も議論されていくと思うが、その議論の共通素材を得る精確な方法として、本研究で使用した熊大方式に代表されるX線機器による土器の悉皆的調査が今後も重要になってくるものと思われる。

(6) 公開活動

期間中には、3回の研究会、2回の公開シンポジウムを開催した。また、一般向け刊行物1冊の出版および古代歴史文化賞を受賞した。

- ・『研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - 』、熊本大学小畑弘己研究室・明治大学黒耀石研究センター・日本先史文化研究所、(2016 年 12 月 18 日、明治大学グローバルホール、東京都千代田区)
- ・『JSPS 科学研究費補助金研究公開シンポジウム 土器作りから土器圧痕を考える』、39 - 44 頁、熊本大学小畑研究室(2019 年 6 月 2 日・帝京大学文化財研究所ホール)
- ・小畑弘己 2018 『昆虫考古学』、角川選書 610、234 頁、KADOKAWA
- ・第 5 回古代歴史文化賞大賞(島根県・奈良県・三重県・和歌山県・宮崎県) 2017 年 11 月 1 日(東京渋谷区)

< 引用文献 >

- 小畑弘己・金三津道子 2015 「軟 X 線による潜在圧痕の探査と圧痕法の革新 - 富山市平岡遺跡での実践 - 」『平成 26 年度埋蔵文化財年報』、30 - 39 頁、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
- 中沢道彦 2014 「栽培植物の導入とその多様性」『明治大学日本先史文化研究所研究成果公開シンポジウム 縄文文化の繁栄と衰退 「縄文時代後晩期停滞説」の矛盾と展開』、19 - 24 頁、明治大学日本先史文化研究所
- 小畑弘己 2018 「北部九州における弥生時代開始期の穀物組成 - 福岡市橋本一丁田・那珂遺跡における土器圧痕調査の成果 - 」『市史研究ふくおか』13、49 - 64 頁、福岡市史編纂室
- 小畑弘己 2018 「土器圧痕からみた熊本平野における弥生時代開始期の穀物組成」『文学部論叢』109、1 - 13 頁、熊本大学文学部
- 小畑弘己 2018 「表出圧痕は圧痕全体を代表するのか」『考古学研究』260、38 - 59 頁、考古学研究会
- 小畑弘己 2018 「X 線 CT スキャナーによる刻目突帯文甕の籾圧痕の再検討 - 熊本市江津湖遺跡第 9 次調査出土甕の分析 - 」『日本考古学』46、35 - 42 頁
- OBATA H., MORIMOTO K. and MIYANOSHITA A. 2018 Discovery of the Jomon era maize weevils in Hokkaido, Japan and its mean. Journal of Archaeological Science: Reports 23, pp. 137-156. <https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2018.10.037>
- 小畑弘己・佐々木由香・榎原功一・真邊 彩・新田栄治・川島秀義・中村直子 2019 「種実・昆虫圧痕はなぜできるのか(その一) - タイ・ラオスの土器作り村における土器作り環境調

査報告 - 』『古代』144, 81 - 102 頁, 早稲田大学考古学会
真邊 彩・小畑弘己 2017 「産状と成分からみたカラスザンショウ果実の利用法に
ついて」『植生史研究』26-1, 27 - 40 頁, 日本植生史学会, 査読有

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計98件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 134 |
| 2. 論文標題 植物学が明らかにした縄文時代の植物栽培 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 季刊邪馬台国 | 6. 最初と最後の頁 83-97 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 46 |
| 2. 論文標題 X線CTスキャナーによる刻目突帯文甕の初圧痕の再検討 - 熊本市江津湖遺跡第9次調査出土甕の分析 - | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 日本考古学 | 6. 最初と最後の頁 35-42 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 145 |
| 2. 論文標題 圧痕家屋害虫学事始め | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 65-68 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 OBATA H., MORIMOTO K. and MIYANOSHITA A. | 4. 巻 23 |
| 2. 論文標題 Discovery of the Jomon era maize weevils in Hokkaido, Japan and its mean. | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science: Reports | 6. 最初と最後の頁 137-156 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 |
| 2. 論文標題 第二の圧痕 - 鉄器錆化昆虫化石からみた殞 - | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 先史学・考古学論究 | 6. 最初と最後の頁 187-200 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 遼東半島王家村遺跡出土の圧痕調査成果 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 東北アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究 | 6. 最初と最後の頁 38-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 遼東半島王家村遺跡出土の圧痕調査成果 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 東北アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究 | 6. 最初と最後の頁 61-92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 260 |
| 2. 論文標題 表出圧痕は圧痕全体を代表するのか | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 考古学研究 | 6. 最初と最後の頁 38-59 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 山本 華・佐々木由香 | 4. 巻 48 |
| 2. 論文標題 山形県押出遺跡と長者屋敷遺跡にみる縄文時代のアズキ利用 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 山形考古 | 6. 最初と最後の頁 1-10 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・山本 華・米倉浩司 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 生麦八幡前遺跡出土の弥生土器施文具圧痕と木葉底のレプリカ分析 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 生麦八幡前遺跡 | 6. 最初と最後の頁 349-354 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 磯野治司・佐々木由香・阿部芳郎 | 4. 巻 146 |
| 2. 論文標題 花粉・種実と昆虫遺体が語る縄文の生活史ー埼玉県北本市デーノタメ遺跡 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 91-94 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Noshiro, S., Sasaki, Y., Kobayashi, K., Suzuki, M., Nishida, I. | 4. 巻 23 |
| 2. 論文標題 Material selection and weaving techniques for the oldest basketry in Japan found at the Higashimyou site, Saga Prefecture | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 Journal of Archaeological Science | 6. 最初と最後の頁 12-24 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1016/j.jasrep.2018.10.009 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 鈴木三男・矢部 淳・鈴木伸哉・佐々木由香・吉田明弘・工藤雄一郎・那須浩郎 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 日本植生史学会創立30周年記念大会シンポジウム『植生史研究のこれまでとこれから』第2部：パネルディスカッション「多様化する植生史研究」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 93-106 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 145 |
| 2. 論文標題 縄文・弥生時代の編組製品の素材植物 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 44-47 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 山本 華・佐藤亮太・岩浪 陸・佐々木由香・森山 高・中野達也 | 4. 巻 142 |
| 2. 論文標題 埼玉県犬塚遺跡の種実圧痕から見た縄文時代前期の利用植物 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 古代 | 6. 最初と最後の頁 1-22 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 能城修一・村上由美子・佐々木由香・鈴木三男 | 4. 巻 27-1 |
| 2. 論文標題 弥生時代から古墳時代の西日本における鋤鍬へのイチイガシの選択的利用 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 3-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 かごと縄からわかった荒屋敷遺跡の植物利用 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 奥会津平成30年度新指定 国重要文化財荒屋敷遺跡出土品 | 6. 最初と最後の頁 24-28 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 Sasaki, Y., Noshiro, S. | 4. 巻 471 |
| 2. 論文標題 Did a cooling event in the middle to late Jomon periods induced change in the use of plant resources in Japan? | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Quaternary International | 6. 最初と最後の頁 369-384 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1016/j.quaint.2017.10.037 | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・山本 華 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 上境旭台貝塚の大型植物遺体からみた縄文時代後期前葉の植生と植物資源利用 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 研究ノート | 6. 最初と最後の頁 40-49 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 上境旭台貝塚から出土した樹皮紐と編組製品の素材植物 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 研究ノート | 6. 最初と最後の頁 50-54 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・山本 華・米田恭子・阿部芳郎・須賀博子 | 4. 巻 15 |
| 2. 論文標題 上境旭台貝塚土器付着炭化物からみた縄文時代後期前葉の植物利用 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 研究ノート | 6. 最初と最後の頁 55-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 能城修一・村上由美子・佐々木由香・鈴木三男 | 4. 巻 27 |
| 2. 論文標題 弥生時代から古墳時代の西日本における鋤鎌へのイチイガシの選択的利用 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 3-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-------------------|
| 1. 著者名 山下優介・太田 圭・佐藤由紀男・佐々木由香・那須浩郎・百原 新・井上雅孝・笠見智慧・木之内忍・設楽博己 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 2017年度のレプリカ法による種子圧痕の調査 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 SEEDS CONTACT | 6. 最初と最後の頁 4-9 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 太田 圭・笠見智慧・佐藤由紀男・佐々木由香・那須浩郎・百原 新・設楽博己 | 4. 巻 5 |
| 2. 論文標題 東北部における生業基盤の基礎的研究 土師器の器種組成からのアプローチ | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 SEEDS CONTACT | 6. 最初と最後の頁 10-15 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・米田恭子・町田賢一 | 4. 巻 37 |
| 2. 論文標題 小竹貝塚出土の土器付着炭化鱗茎の同定 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 大境 | 6. 最初と最後の頁 61-70 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・鈴木英里香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 レプリカ法による土器種実圧痕の同定(2) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 山梨県北杜市明野町上神取諏訪原遺跡発掘調査報告書II | 6. 最初と最後の頁 83-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 上野真由美・佐々木由香 | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 中井遺跡における縄文中期の食用植物について レプリカ法による土器種実圧痕の同定 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小澤清男・片岡太郎・鹿納晴尚・上様信彦・小林和貴・佐々木理・佐々木由香・鈴木三男・永嶋正春・能城修一・バンダリ スダルシャン | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 新潟県長岡市根立遺跡出土の漆製品と植物遺体の研究(2) | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 長岡市立科学博物館研究報告 | 6. 最初と最後の頁 65-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 新里亮人・與嶺有紀也・具志堅 亮・小畑弘己 | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 奄美諸島徳之島における土器圧痕調査の成果 - 貝塚時代後2期~グスク時代を中心に - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 南島考古 | 6. 最初と最後の頁 203-210 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 真邊彩・小畑弘己・新里亮人・鼎丈太郎・面 将道 | 4. 巻 47 |
| 2. 論文標題 南西諸島の縄文時代晩期資料の圧痕調査成果 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 鹿児島考古 | 6. 最初と最後の頁 43-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 古屋敷遺跡出土の種実および土器圧痕調査報告 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 古屋敷遺跡 (G区) | 6. 最初と最後の頁 112-119 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 109 |
| 2. 論文標題 土器圧痕からみた熊本平野における弥生時代開始期の穀物組成 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 文学部論叢 | 6. 最初と最後の頁 1-13 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 北部九州における弥生時代開始期の穀物組成 - 福岡市橋本一丁田・ | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 市史研究ふくおか | 6. 最初と最後の頁 49-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 円筒土器文化の栽培植物と家屋害虫 - 青森県三内丸山遺跡における | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 中山清美さん追悼論文集 (仮題) | 6. 最初と最後の頁 487-499 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 343 |
| 2. 論文標題 幸連3遺跡出土土器の圧痕調査報告 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 幸連3遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 | 6. 最初と最後の頁 271-273 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 344 |
| 2. 論文標題 釜谷10遺跡出土土器の圧痕調査報告 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 釜谷10遺跡 北海道埋蔵文化財センター調査報告 | 6. 最初と最後の頁 162-164 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 大分県中津市法垣遺跡出土の土器圧痕および種実・動物遺体調査報告 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 法垣遺跡 本文、遺構・遺物図版、石製品写真図版・観察表編 事務所建設・道の駅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(2) | 6. 最初と最後の頁 371-390 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小林啓 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 高精細三次元データを用いた考古遺物の新たな資料化に係る研究 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 科学研究費助成事業 若手研究(B) 課題番号17K12965 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 加藤和歳、小林啓(他員数3) | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 X線CTスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る研究()-福岡県春日市須玖岡本遺跡出土甕棺の内部情報抽出と記録- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 日本文化財科学会第34回大会研究発表要旨集 | 6. 最初と最後の頁 12-13 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林啓、加藤和歳、岩橋由季(他員数5) | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 船原古墳遺物埋納坑出土鉄釘に付着した有機質の観察による埋納容器の想定復 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 日本文化財科学会第34回大会研究発表要旨集 | 6. 最初と最後の頁 88-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 加藤和歳、井形進、小林啓 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 文化財用X線CTスキャナによる福岡県生立八幡宮僧形八幡神座像の研究 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 文化財保存修復学会第39回大会研究発表要旨集 | 6. 最初と最後の頁 208-209 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 小林啓、安木由美 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 善一田古墳出土盛矢具の材質分析 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 乙金地区遺跡群23<中巻>善一田遺跡第4次調査 大野城市文化財調査報告書第159集 | 6. 最初と最後の頁 53-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林啓 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 最近の出土遺物における科学的調査事例 東九州自動車道発掘調査に係る出土金属遺物を対象として | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 九州歴史資料館研究論集 | 6. 最初と最後の頁 47-60 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林啓 | 4. 巻 263 |
| 2. 論文標題 彼岸田遺跡出土木製品の樹種同定 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 彼岸田遺跡 福岡県文化財調査報告書 | 6. 最初と最後の頁 39-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 長期継続型遺跡における初期農耕の導入の一事例 新潟県上越市和泉A遺跡・籠峰遺跡 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山本暉久先生古稀記念論文集 21世紀考古学の現在 | 6. 最初と最後の頁 89-98 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 139 |
| 2. 論文標題 論文展望 縄文時代食料採集経済説の成立背景 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 107 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 那須浩郎・中沢道彦 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 小佐原遺跡出土の植物遺体について | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 奥信濃文化 | 6. 最初と最後の頁 14-19 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦・羽深忠司・高橋陽一 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 中部地方の集落と遺跡群 長野県小諸市石神遺跡群と新潟県上越市籠峰遺跡 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム 縄文文化の繁栄と衰退 後晩期集落と地域社会の広域比較 | 6. 最初と最後の頁 19-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 納屋内高史・中沢道彦 | 4. 巻 19 |
| 2. 論文標題 長野市大清水遺跡出土の動物遺存体の再検討 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 長野市立博物館研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 巻 16 |
| 2. 論文標題 竪穴住居の類型と系譜-長野県増野新切遺跡の分析- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 帝京大学文化財研究所研究報告 | 6. 最初と最後の頁 37-52 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 竪穴住居の柱穴配置-縄文中期後半の八ヶ岳南麓の様相- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山梨県考古学協会誌 | 6. 最初と最後の頁 101-112 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 竪穴住居の二つの建築仕様-立石遺跡と清水遺跡- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山本暉久先生古稀記念論集 21世紀考古学の現在 | 6. 最初と最後の頁 200-210 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 巻 702 |
| 2. 論文標題 中部地方における配石墓・石棺墓の出現と展開 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 考古学ジャーナル | 6. 最初と最後の頁 22-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 巻 223 |
| 2. 論文標題 敷石住居の出現期の様相-甲信地域を中心に- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 国史学 | 6. 最初と最後の頁 125-148 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 榎原功一・中島一成 | 4. 巻 33 |
| 2. 論文標題 山梨県亀甲塚古墳の調査概要 平成29年度考古学総合実習の成果 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 帝京史学 | 6. 最初と最後の頁 407-428 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 Yuka Sasaki, Shuichi Noshiro | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 Did a cooling event in the middle to late Jomon periods induced change in the use of plant resources in Japan? | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 Quaternary International | 6. 最初と最後の頁 1-16 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1016/j.quaint.2017.10.037 | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 大網信良・守屋 亮・佐々木由香・長佐古真也 | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 土器庄痕からみた縄文時代中期における多摩ニュータウン遺跡群の植物利用と遺跡間関係 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 東京都埋蔵文化財センター研究論集 | 6. 最初と最後の頁 1-26 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男・斉藤洋子 | 4. 巻 43 |
| 2. 論文標題 秋田県戸平川遺跡出土編組製品の素材植物と技法 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 秋田県立博物館研究報告 | 6. 最初と最後の頁 32-39 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 鳥取市高住牛輪谷遺跡から出土した素材束の植物種 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 高住牛輪谷遺跡 | 6. 最初と最後の頁 379-386 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小林和貴・佐々木由香・能城修一・鈴木三男 | 4. 巻 2 |
| 2. 論文標題 鳥取市松原田中遺跡出土編組製品等の素材の植物種 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 松原田中遺跡III | 6. 最初と最後の頁 931-936 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 鈴木三男・小林和貴・吉川純子・佐々木由香・能城修一 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 東京都新宿区南元町遺跡から出土した布袋に入った江戸時代の茶 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 79-85 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本 華・佐々木由香・大網信良・亀田直美・黒沼保子 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 東京都下野谷遺跡における縄文時代中期の植物資源利用 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 63-74 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 土器の「くぼみ」から知る弥生時代の食料事情 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 横浜に稲作がやってきた | 6. 最初と最後の頁 74-75 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・米田恭子 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 レプリカ法による新羽浅間神社遺跡の弥生土器圧痕の同定 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 横浜に稲作がやってきた | 6. 最初と最後の頁 71 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 川添和暁・佐々木由香・米田恭子・バンダリ スダルシャン | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 東海市松崎遺跡出土製塩土器の圧痕分析 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 研究紀要 | 6. 最初と最後の頁 22-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・バンダリ スダルシャン | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 御殿前遺跡出土の大型植物遺体 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 北区御殿前遺跡 | 6. 最初と最後の頁 322-332 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 レプリカ法による土器種実圧痕の同定 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山梨県北杜市明野町上神取諏訪原遺跡発掘調査報告書1 2007-11年度調査区 | 6. 最初と最後の頁 81-89 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・山本 華・大網信良 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 土器種実圧痕の同定 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 史跡加曾利貝塚総括報告書 | 6. 最初と最後の頁 716-721 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 米田恭子・佐々木由香 | 4. 巻 3 |
| 2. 論文標題 庄・葺本遺跡出土の土器付着炭化鱗茎の同定 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 徳島大学埋蔵文化財調査室紀要 | 6. 最初と最後の頁 80-88 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小林和貴・鈴木三男・佐々木由香・能城修一 | 4. 巻 25 |
| 2. 論文標題 唐古・鍵遺跡から出土した編組製品等の素材の植物種 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 田原本町文化財調査年報 | 6. 最初と最後の頁 117-137 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 51-6 |
| 2. 論文標題 縄文時代の家屋害虫：コクゾウムシ | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 昆虫と自然 | 6. 最初と最後の頁 24-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 害虫と食料貯蔵 - 縄文コクゾウムシが語る多様な食料貯蔵 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 海と山と里の考古学 - 山崎純男博士古稀記念論集 - | 6. 最初と最後の頁 107-118 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 26 |
| 2. 論文標題 圧痕法が切り開く新たな縄文時代像 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 BIOSTORY | 6. 最初と最後の頁 68-69 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 63-3 |
| 2. 論文標題 縄文時代の環境変動と植物利用戦略 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 考古学研究 | 6. 最初と最後の頁 24-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 真邊彩・小畑弘己 | 4. 巻 26-1 |
| 2. 論文標題 産状と成分からみたカラスザンショウ果実の利用法について | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 27-40 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 49-6 |
| 2. 論文標題 圧痕法が明かす縄文人の食と心 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 ユリイカ | 6. 最初と最後の頁 94-104 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 館崎遺跡出土土器の圧痕調査報告 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 福島町館崎遺跡 | 6. 最初と最後の頁 202-212 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 玉名市木船西遺跡出土弥生土器の圧痕調査 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 玉名市木船西遺跡 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 57 |
| 2. 論文標題 特別講演 - 埋蔵文化財調査における新たな調査法とその成果 - | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 公立埋文協会報 | 6. 最初と最後の頁 9-17 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 植物性食料 - 採集と貯蔵 - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 縄文の奇跡 東名遺跡 - 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル - | 6. 最初と最後の頁 108-114 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 コラム 土器圧痕からわかること | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 縄文の奇跡 東名遺跡 - 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル - | 6. 最初と最後の頁 223-225 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 会田 進・酒井幸則・佐々木由香・山田武文・那須浩郎・中沢道彦 | 4. 巻 7 |
| 2. 論文標題 アズキ亜属種子が多量に混入する縄文土器と種実が多量に混入する意味 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 資源環境と人類 | 6. 最初と最後の頁 23-50 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 小澤清男・小林和貴・佐々木由香・他7名 | 4. 巻 52 |
| 2. 論文標題 新潟県長岡市根立遺跡出土の漆製品と植物遺体の研究(1) | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 長岡市立科学博物館研究報告 | 6. 最初と最後の頁 73-92 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 工藤雄一郎・網谷克彦・吉川純子・佐々木由香 (他2名) | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 福井県鳥浜貝塚から出土した大型植物遺体の14C年代測定 - ; 縄文時代草創期から前期の堆積物層序と土器型式の年代の再検討 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 43-57 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 吉川昌伸・吉川純子・能城修一・工藤雄一郎・佐々木由香（他3名） | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 福井県鳥浜貝塚の縄文時代草創期から前期の植生史と植物利用 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 植生史研究 | 6. 最初と最後の頁 69-82 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|--------------------|
| 1. 著者名 Noshiro, S., Kudo, Y., Sasaki, Y. | 4. 巻 JQ16155 |
| 2. 論文標題 Emergence of prehistoric management of plant resources during the incipient to initial Jomon periods in Japan | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 Quaternary International | 6. 最初と最後の頁 1-12 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本 華・佐々木由香・バンドリ スダルシャン | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 クルミ塚から出土した大型植物遺体 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 デーノタメ遺跡 久保特定土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書 | 6. 最初と最後の頁 43-45 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 山本 華・佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 土器種実圧痕 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 デーノタメ遺跡 久保特定土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書 | 6. 最初と最後の頁 45-46 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 横幕 真・佐々木由香・小林和貴・米倉浩司 | 4. 巻 60 |
| 2. 論文標題 レプリカ法を用いた縄文・弥生土器木葉底の同定 - 小松市念仏林遺跡・八日市地方遺跡出土土器木葉底を中心に - | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 石川考古学研究会々誌 | 6. 最初と最後の頁 51-62 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香・能城修一 | 4. 巻 138 |
| 2. 論文標題 植物考古学からみた弥生時代のはじまり | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 38-42 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 編組製品の技法と素材植物 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 さらにわかった 縄文時代の植物利用 | 6. 最初と最後の頁 70-93 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 縄文時代の編組製品とは | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 縄文の奇跡 東名遺跡 - 歴史をぬりかえた縄文のタイムカプセル - | 6. 最初と最後の頁 20-27 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 縄文時代中期の植物資源利用-山梨県北杜市諏訪原遺跡を例にして- | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山本暉久先生古稀記念論集 21世紀考古学の現在 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 長野県御社宮司遺跡の生業復元試論 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 魂の考古学 豆谷和之さん追悼論文編 | 6. 最初と最後の頁 163-172 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 縄文時代食料採集経済説の成立背景 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 海と山と里の考古学 山崎純男博士古稀記念論集 | 6. 最初と最後の頁 139-150 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 浮線文土器群の製作復元に向けて | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - | 6. 最初と最後の頁 31-36 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 138 |
| 2. 論文標題 日本列島における農耕の伝播と定着 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 季刊考古学 | 6. 最初と最後の頁 26-29 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 中沢道彦 | 4. 巻 - |
| 2. 論文標題 期継続型遺跡における初期農耕の導入の一事例 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 山本暉久先生古稀記念論文集 21世紀考古学の現在 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計95件 (うち招待講演 33件 / うち国際学会 9件)

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 土器圧痕分析からみた弥生時代開始期の大陸系穀物 |
| 3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会研究発表要旨 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 土器圧痕が語る縄文時代の植物利用 |
| 3. 学会等名 明治大学博物館友の会講演 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 黄泉の国のムシたち |
| 3. 学会等名 平成30年度宮崎県立西都原考古博物館特別展 共に生きたもの - ムシと動物の考古学 - 関連講演会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小畑弘己・宮浦舞衣・金原正明・金原美奈子・孫 国平 |
| 2. 発表標題 中国浙江省田螺山遺跡における土器圧痕調査とその成果 - Sitophilus属甲虫圧痕の発見 - |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第33回大会講演要旨集 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 小泉玲子・佐々木由香・昭和女子大学中屋敷遺跡調査団 |
| 2. 発表標題 神奈川県足柄上郡大井町中屋敷遺跡第9次調査報告 |
| 3. 学会等名 日本考古学協会第84回総会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香・桑島晴香・小泉玲子 |
| 2. 発表標題 炭化種実と土器圧痕からみた中屋敷遺跡における弥生時代前期の植物資源利用 |
| 3. 学会等名 日本文化財科学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 考古学者のお仕事体験！土器に残る不思議な“へこみ”を調べよう～先史時代の人は何を食べていたのかな？～ |
| 3. 学会等名 - (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 ここまでわかった！縄文時代 |
| 3. 学会等名 ふるさと文化講座 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yuka Sasaki, Shuichi Noshiro and Yuichiro Kudo |
| 2. 発表標題 Use of lacquer trees (<i>Toxicodendron vernicifluum</i>) for lacquer collection and lowland construction during the Jomon Period in Japan |
| 3. 学会等名 Asian Lacquer Craft Exchange Exhibition (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Shuichi Noshiro, Yuichiro Kudo, and Yuka Sasaki |
| 2. 発表標題 Lacquer trees in SE and S Asia and introduction of <i>Toxicodendron vernicifluum</i> into prehistoric Japan |
| 3. 学会等名 Asian Lacquer Craft Exchange Exhibition (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yuichiro Kudo, Shuichi Noshiro and Yuka Sasaki |
| 2. 発表標題 Earliest evidence of the Lacquer tree (<i>Toxicodendron vernicifluum</i>) and the Lacquer culture of the Jomon period in prehistoric Japan |
| 3. 学会等名 Asian Lacquer Craft Exchange Exhibition (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文人の鱗茎利用 |
| 3. 学会等名 第18回クロメ会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文人が食べていたもの 土器に埋め込まれた秘密を探る |
| 3. 学会等名 考古学体験講座1 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 調査事例 + 大型植物遺体 |
| 3. 学会等名 低湿地遺跡調査課程 (招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・山本 華 |
| 2. 発表標題 関東地方の縄文集落と植物資源 |
| 3. 学会等名 第12回九州古代種子研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 野本紗英里・佐々木由香・バンダリ スダルシャン |
| 2. 発表標題 武田氏館跡からみる中世の植物利用 |
| 3. 学会等名 第33回日本植生史学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 吉川昌伸・能城修一・工藤雄一郎・佐々木由香 |
| 2. 発表標題 関東平野中央部における縄文時代の植生変遷と森林資源管理 |
| 3. 学会等名 第33回日本植生史学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 能城修一・吉川昌伸・工藤雄一郎・佐々木由香・阿部芳郎 |
| 2. 発表標題 茨城県上境旭台貝塚とその周辺における縄文時代後・晩期の植物資源利用 |
| 3. 学会等名 第33回日本植生史学会大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 小泉玲子・佐々木由香 |
| 2. 発表標題 大井町中屋敷遺跡 第9・10次調査の成果 |
| 3. 学会等名 第42回神奈川県遺跡調査・研究発表会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・國木田 大・設楽博己 |
| 2. 発表標題 炭化種実からみた本州東半部における弥生時代の穀物利用 |
| 3. 学会等名 東日本における農耕文化の展開 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 能城修一・佐々木由香 |
| 2. 発表標題 樹種選択と環境からみた縄文時代の水場遺構 |
| 3. 学会等名 「トチの実加工場」は存在したのか？ 縄文時代の木組遺構とその機能を考える |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 これからおもしろい！御所野遺跡から始める縄文学 植物編 |
| 3. 学会等名 平成30年度御所野縄文博物館調査成果発表会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 最新の自然科学分析からみた弥生人の暮らし |
| 3. 学会等名 平成30年度神崎遺跡資料館連続講座 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 種実・昆虫混入土器とその意味について |
| 3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会研究発表要旨 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己・豊永結花里・尾上博一 |
| 2. 発表標題 対馬越高遺跡の発掘調査と隆起文土器 |
| 3. 学会等名 韓・日新石器時代文化遺跡発掘調査成果 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 縄文人とダイズ |
| 3. 学会等名 古代歴史文化賞大賞受賞記念講演 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|----------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 タネをまく縄文人 |
| 3. 学会等名 古代歴史文化賞大賞受賞記念講演 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 加藤和歳、井形進、小林啓 |
| 2. 発表標題 文化財用X線CTスキャナによる福岡県生立八幡宮僧形八幡神座像の研究 |
| 3. 学会等名 文化財保存修復学会第39回大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小林啓、加藤和歳、岩橋由季（他員数5） |
| 2. 発表標題 「船原古墳遺物埋納坑出土鉄釘に付着した有機質の観察による埋納容器の想定復 |
| 3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 加藤和歳、小林啓（他員数3） |
| 2. 発表標題 X線CTスキャナの活用による遺跡で発見される豊富な遺物情報を得る研究()-福岡県春日市須玖岡本遺跡出土甕棺の内部情報抽出と記録- |
| 3. 学会等名 日本文化財科学会第34回大会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中沢道彦・納屋内高史・町田賢一 |
| 2. 発表標題 日本海岸沿岸における縄文時代のサメ類利用の総合的研究 |
| 3. 学会等名 2016年度日本海学研究グループ支援事業研究成果発表会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中沢道彦・羽深忠司・高橋陽一 |
| 2. 発表標題 中部地方の集落と遺跡群 長野県小諸市石神遺跡群と新潟県上越市籠峰遺跡 |
| 3. 学会等名 明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 中沢道彦 |
| 2. 発表標題 縄文時代のサメ類利用について 日本海沿岸を中心に |
| 3. 学会等名 第1回北陸貝塚研究会発表 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 榎原功一 |
| 2. 発表標題 アク・ベシム遺跡第2シャフリスタンの瓦 |
| 3. 学会等名 シルクロード学研究会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 榎原功一 |
| 2. 発表標題 アク・ベシム遺跡シャフリスタン地区の調査 |
| 3. 学会等名 中央アジア遺跡調査報告会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 榎原功一 |
| 2. 発表標題 中央アジア、シルクロード拠点都市の成立とその展開-キルギス共和国、アク・ベシム遺跡の調査(2017年度)- |
| 3. 学会等名 西アジア考古学会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 デーノタメ遺跡の縄文人の植物食 |
| 3. 学会等名 デーノタメ遺跡が拓く縄文の世界 縄文時代の環境と食(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香ほか(1番目) |
| 2. 発表標題 実験報告「縄文の土屋根の上でマメを育てる」 |
| 3. 学会等名 御所野遺跡：平成29年度調査成果発表会(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 新潟市における植物資源利用史 |
| 3. 学会等名 新潟市遺跡発掘調査速報会「最新調査成果が語る新潟市の歴史」(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文時代の編組製品にみる素材管理 |
| 3. 学会等名 シンポジウム「縄文時代の植物資源の利用・管理・栽培を考える」(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 土器のくぼみからわかった 縄文人の食料事情 |
| 3. 学会等名 第3回 下野谷遺跡国史跡指定記念シンポジウム マメとエゴマでヘルシーライフ?! |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Sasaki, Y. |
| 2. 発表標題 Recent developments of Japanese archaeobotanical studies based on pottery impressions |
| 3. 学会等名 International Symposium: Afro-Eurasian Archaeobotany: New perspectives, new approaches. Abstracts 18-19. (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・米田恭子・東 和幸・桑畑光博 |
| 2. 発表標題 南九州地方における縄文時代の鱗莖利用 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第32回大会講演要旨集, 15 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・能城修一 |
| 2. 発表標題 縄文時代の「根」の利用 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第32回大会講演要旨集, 16-17 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 能城修一・吉川昌伸・工藤雄一郎・佐々木由香 |
| 2. 発表標題 東京都御殿前遺跡からみる縄文時代早期後葉の森林資源管理 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第32回大会講演要旨集, 18 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 大木美南・佐々木由香・能城修一・阿部芳郎 |
| 2. 発表標題 縄文時代における人為生態系の形成とクリ果実の大型化 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第32回大会講演要旨集, 43 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 鈴木三男・小林和貴・佐々木由香・能城修一・鄭飛雲・丁品・中村慎一 |
| 2. 発表標題 中国浙江省湖州市錢山漾遺跡から再発掘された「絹製品」の素材同定 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会第32回大会講演要旨集, 45-46 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文時代から続く植物利用 暮らしの中の編組 |
| 3. 学会等名 企画展「植物を編む - 暮らしの中の編組 - 」関連イベント(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文時代の土器に残った種子痕跡 |
| 3. 学会等名 かながわ考古学同好会(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 種・昆虫・編みかごからみた弥生時代の暮らし |
| 3. 学会等名 えびな文化財探求舎考古学講座(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 見えてきた！縄文時代の編組製品 |
| 3. 学会等名 見えてきた！縄文の編みかご文化 - 現代につながる技と美 - (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 植物遺体からみた海と山の生業 |
| 3. 学会等名 国史跡が拓く縄文の世界 (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 圧痕レプリカワークショップ&ミニ講座 |
| 3. 学会等名 企画展横浜に稲作がやってきた 関連事業 (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 倭人の食卓を彩った植物 |
| 3. 学会等名 平成29年度 弥生の森講座 (招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文時代の植物資源利用 |
| 3. 学会等名 文化財講演会「植物利用の考古学」(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 考古学者のお仕事体験!土器に残る不思議な「へこみ」を調べよう 先史時代の人は何を食べていたのかな? |
| 3. 学会等名 多摩六都科学館ワークショップ(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 圧痕部に入ろう 土器に含まれる種子のお話と実演 |
| 3. 学会等名 平成29年度第141回袖ヶ浦学(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・米田恭子・小林和貴 |
| 2. 発表標題 縄文・弥生時代出土鱗茎の同定方法の開発と利用例 |
| 3. 学会等名 日本文化財科学会大会研究発表要旨集, 80-81 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・小林和貴・鈴木三男・能城修一 |
| 2. 発表標題 縄文 弥生時代の編組製品と縄の素材植物 |
| 3. 学会等名 日本考古学協会第83回総会要旨集， |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 縄文時代の環境変動と植物利用戦略 |
| 3. 学会等名 考古学研究会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 サクランボは食べなかった？チンギス・カン - モンゴル・アウラガ遺跡2015年出土バラ科果実の訂正および再同定 - |
| 3. 学会等名 日本植生史学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 考古昆虫学と土器からみた家屋害虫 |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 真邊 彩・小畑弘己・新里亮人・鼎丈太郎・面 将道 |
| 2. 発表標題 南西諸島の縄文時代後晩期資料の圧痕調査成果 |
| 3. 学会等名 第7回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 小畑弘己 |
| 2. 発表標題 What Seed and Insect Impression / Cavities on Potteries Tell? |
| 3. 学会等名 東アジア考古学会第7回世界大会（国際学会） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Hiroki OBATA |
| 2. 発表標題 特別講演 - 埋蔵文化財調査における新たな調査法とその成果 - |
| 3. 学会等名 全国公立埋蔵文化財センター協議会平成28年度総会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yuka SASAKI |
| 2. 発表標題 Feasting in the Early to Middle Jomon periods deduced from seed impressions on pottery |
| 3. 学会等名 Annual Meeting of the Society for American Archaeology (SAA)（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 倭人の食卓－弥生の青果 |
| 3. 学会等名 第1回 とっとり弥生の王国シンポジウム「倭人の食卓」(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文土器の圧痕調査で わかること |
| 3. 学会等名 報告会「おおむかしのあさひまち」(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香・井上雅孝 |
| 2. 発表標題 東北地方北部の弥生時代の植物資源利用 －岩手県滝沢市湯舟沢遺跡を中心に－ |
| 3. 学会等名 日本列島北部の穀物栽培 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 レプリカ法による 馬場平遺跡出土土器圧痕の新発見 |
| 3. 学会等名 平成28年度調査成果発表会(招待講演) |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 土器についての植物を調べてみよう！ |
| 3. 学会等名 博物館講座 「弥生人たちはどんなものを食べていたの？」（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 レプリカ法による土器圧痕調査で 弥生時代の植物を学ぼう！ |
| 3. 学会等名 博物館講座 「弥生人たちはどんなものを食べていたの？」（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文土器の圧痕レプリカ法からわかってきたこと |
| 3. 学会等名 地域学講座「木更津風土記」（後期）（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 関東地方における縄文時代種実圧痕の時期別傾向と植物種 |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 植物資源の利用から見た縄文社会の特性 |
| 3. 学会等名 明治大学黒耀石研究センター「国史跡が拓く縄文の世界」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文時代の低湿地遺跡 |
| 3. 学会等名 遊佐町教育委員会「現代に伝わる縄文の風景・暮らし」シンポジウム（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 矢部 淳・鈴木伸哉・佐々木由香・吉田明弘・工藤雄一郎・那須浩郎 |
| 2. 発表標題 多様化する植生史研究 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香・山本 華・大網信良・西野雅人 |
| 2. 発表標題 千葉県加曽利貝塚の土器圧痕から見た縄文時代中～晩期の植物資源利用 |
| 3. 学会等名 日本植生史学会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 鳥浜貝塚の植物資源利用 |
| 3. 学会等名 平成28年度第5回若狭町歴史環境講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文人とウルシ |
| 3. 学会等名 鎌倉彫会館リニューアル企画木からの諷示（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 土器種実圧痕にみる縄文時代のセット関係 |
| 3. 学会等名 研究発表会「縄文時代のマメ栽培化過程の解明～縄文時代の食物革命～」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 植物資源利用からみた縄文文化 |
| 3. 学会等名 雄山閣百周年記念シンポジウム考古学100年学際研究のいま（招待講演） |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 縄文人とウルシの関わり |
| 3. 学会等名 2016年度クロメ会 (招待講演) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Sasaki, Y., Noshiro, N. |
| 2. 発表標題 Regional differences in the use and management of plant resources during the Jomon period in Japan |
| 3. 学会等名 WAC-8 Kyoto (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Noshiro, S., Kudo, Y., Sasaki, Y. |
| 2. 発表標題 Emergence of prehistoric management of plant resources during the incipient to initial Jomon periods in Japan |
| 3. 学会等名 WAC-8 Kyoto (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Nasu, H., Aida, S., Sasaki, Y. |
| 2. 発表標題 Seed enlargement of soybean and azuki during the Middle Jomon, Central Japan |
| 3. 学会等名 WAC-8 Kyoto (国際学会) |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 植物資源利用から見た縄文社会の複雑化 |
| 3. 学会等名 明治大学黒耀石研究センター「縄文文化の繁栄と衰退」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 佐々木由香 |
| 2. 発表標題 考古学者のお仕事体験！土器に残る不思議な"へこみ"を調べよう～先史時代の人は何を食べていたのかな？～ |
| 3. 学会等名 多摩六都科学館 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 佐々木由香・米田恭子・小林和貴 |
| 2. 発表標題 縄文時代から弥生時代の出土炭化鱗茎同定の試み |
| 3. 学会等名 日本文化財科学会第33回大会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中沢道彦 |
| 2. 発表標題 種実圧痕から見える課題 縄文時代生業研究への展望 |
| 3. 学会等名 尖石縄文考古館縄文ゼミナール特別編「研究発表会 縄文時代のマメ栽培化過程の解明 縄文時代の食物革命」 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中沢道彦 |
| 2. 発表標題 浮線文土器群の製作復元に向けて |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|----------------------|
| 1. 発表者名 中沢道彦 |
| 2. 発表標題 レプリカ法について |
| 3. 学会等名 三谷遺跡検討会 |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮地聡一郎 |
| 2. 発表標題 穀物栽培開始期の上限をめぐる諸問題 |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 榎原功一 |
| 2. 発表標題 土器づくりの場を考える |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 真邊 彩 |
| 2. 発表標題 圧痕からみた南西諸島-タネ、ムシ、葉っぱ- |
| 3. 学会等名 研究成果公開シンポジウム 土器を掘る - 土器研究と圧痕法のいま、そして未来 - |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計9件

| | |
|----------------|-----------------|
| 1. 著者名 小畑弘己 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 角川選書 | 5. 総ページ数 234 |
| 3. 書名 昆虫考古学 | |

| | |
|------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 小泉玲子・佐々木由香・井口真理子編 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 - | 5. 総ページ数 24 |
| 3. 書名 神奈川県足柄上郡大井町中屋敷遺跡第9次発掘調査概報 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 甲州市教育委員会・山梨文化財研究所 | 5. 総ページ数 72 |
| 3. 書名 於曾屋敷遺跡 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 榑原功一 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 笛吹市教育委員会・山梨文化財研究所 | 5. 総ページ数 72 |
| 3. 書名 横堰遺跡 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 榑原功一 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 甲州市教育委員会・山梨文化財研究所 | 5. 総ページ数 20 |
| 3. 書名 千手院前遺跡 | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 榑原功一 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 甲州市教育委員会・山梨文化財研究所 | 5. 総ページ数 153 |
| 3. 書名 大木戸・后畑遺跡 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 山内和也・榑原功一・望月秀和 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 帝京大学シルクロード学術調査団・キルギス共和国科学アカデミー | 5. 総ページ数 94 |
| 3. 書名 アク・ベシム遺跡調査報告書(2016) | |

| | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 榎原功一 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 山梨市教育委員会・山梨文化財研究所 | 5. 総ページ数 48 |
| 3. 書名 中沢・阿弥陀堂遺跡 | |

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 佐々木由香 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 六一書房 | 5. 総ページ数 10 |
| 3. 書名 山本暉久先生古稀記念論集 21世紀考古学の現在 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--------------------------------------|----|
| 研究分担者 | 小林 啓 (KOBAYASHI KEI) (20638457) | 九州歴史資料館・学芸調査室・研究員(移行) (87111) | |
| 研究分担者 | 中沢 道彦 (NAKAZAWA MICHIIHIKO) (40626032) | 明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員 (32682) | |
| 研究分担者 | 榎原 功一 (KUSHIHARA KOICHI) (50642526) | 帝京大学・付置研究所・講師 (32643) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|---|---|----|
| 研究 分担者 | 佐々木 由香 (SASAKI YUKA) (70642057) | 明治大学・研究・知財戦略機構・研究推進員 (32682) | |
| 研究 協力者 | 宮地 聡一郎 (MIYAJI SOICHIRO) | | |
| 研究 協力者 | 真邊 彩 (MANABE AYA) | | |